

## 公共事業における木質土木用材を活用した優良工事例コンテスト

【資源活用課】平成二十八年三月十七日

に長野市のホテル国際21において、長野県県産材振興対策協議会土木用材利用推進部会主催の「公共事業における木質土木用材を活用した優良工事例コンテスト」が行われ、長野県内の各森林管理署、南木曽支署、伊那谷総合治山事業所をはじめ県の出先機関等から応募のあった十五件の中から七工事が審査で優良事例として選定され表彰されました。

長野県知事賞は、上伊那地方事務所の「木工沈床」、中部森林管理局長賞は、千



北信署の事例（長野県飯山市照岡山国有林）



表彰された皆さん

曲川河川事務所の「根固め工」、長野県治山林道協会会長賞は、北信森林管理署の「木製校倉式谷止工」、長野県森林組合連合会長賞は、南木曽支署の「丸太残存型枠工・丸太沈床工・丸太筋工」、長野県木材協同組合連合会理事長賞は、中信森林管理署の「景観工（木質修景工）」、長野県県産材振興対策協議会会長賞は、東信森林管理署の「丸太積工」と上伊那地方事務所の「丸太基礎杭工」がそれぞれ受賞しました。

このコンテストは、平成二十二年度に「公共建築物等における木材の利用促進に関する法律」の施行等により木材利用

の気運が高まっていることを背景に、長野県産土木用材のより一層の利用拡大を図る活動の一環として始めたもので、今回が六回目となります。

国として国産材の利用拡大を進めてきた中で、十八割まで落ち込んでいた自給率が平成二十六年には三十割台に回復したところです。しかしながら、目標の五十割達成は厳しい状況の中で、目標達成時期を先送りすることとなっています。こうした中で、表彰式に先立ち、今後の木材の動向に関する研修会が開催され、土木用材の今後の動向についてとして、「丸太打設による液状化対策等」（飛鳥建設沼田部長様）と「信州カラマツの加工技術の試験研究の取組みについて」（長野県林業総合センター吉田所長様）の熱く貴重な講演があり、県産材、国産材の利用拡大に向けて更なる気運が高まったところです。

## 第2回中部地区広域原木流通協議会を開催

【名古屋事務所】二月二十二日、TKP名古屋ビジネスセンターにおいて、平成二十七年第二回中部地区広域原木流通協議会（会長鈴木和雄）が開催されました。

本協議会は、国産材の安定的・効率的な供給体制の構築を図るため、九月に第一回が開催され、今回で二回目となり、

一回目と同様に国産材の安定供給体制の構築に向けた需給情報連絡協議会開催要領に基づく「地区別需給情報連絡協議会」と同時開催という形で行われました。

協議会には、信州大学農学部教授 植木達人氏、NPO法人活木活木森ネット ワーク理事長 遠藤日雄氏の学識経験者をはじめ、林野庁、中部森林管理局、県（長野・岐阜・愛知・富山・石川・福井



第2回中部地区広域原木流通協議会

県の六県)、各県の森林組合、林産・木材生産事業者、市場関係者、マスコミ各社等約六〇余名が参加しました。

今回の議題は、「森林整備・木材生産の事業予定量について」、「木材生産や製品等に関する需給状況等について」等が行われ、植木座長の進行で議事が進められました。

森林整備・木材生産の事業予定量については、行政機関の林野庁・長野県・岐阜県・中部森林管理局から、予定量等の報告が行われ、個別の事業者からは、川上・川中・川下の事業者である愛知県・福井県森林組合連合会、(株)東海木材相互市場、東信木材センター協同組合連合会、ウッドリンク(株)、森の合板協同組合、齋藤木材工業、富山県チップ協会・チューモク、大王製紙、中越パルプ、岐阜県山林種苗共同組合から報告を受けました。

意見交換の中で、国有林へは、「林地残材が活用されている実態についての事例」、「国有林の立木販売の計画と実行との差の原因」などの質問や種苗生産事業者からは、「国有林からは計画的に発注いただき、生産できているものの、民有林においてなかなか生産の見通しが見えない現状」などの意見も出されました。

このほかに日本貨物鉄道(株)から取り組む予定となっている丸太の貨物輸送についての情報提供、住友林業(株)資源環境部山林部より、委託調査事業の報告及び事

務局より、平成二十七年の事業実施状況報告を受けました。

最後に次年度についても引き続き広域原木流通協議会を実施していくことを確認され協議会を終了しました。

中部地区において合板工場、大型製材工場、木質バイオマス発電施設等が稼働し始め、長野県・三重県・愛知県・福井県などでも木質バイオマス発電施設が稼働予定であることや、原木・製品での海外輸出なども増加傾向にあることから、協議会の意義がますます重要となると思われます。

## 各地からのたより

### 戸隠森林植物園で

#### 共催イベント開催

【北信署】北信森林管理署とNPO法人やまぼうし自然学校とは、相互の連携と協力によりイベントが円滑に実施できるよう「イベント実施協定書」を平成二十七年四月に締結しました。

この協定に基づき、当署とNPO法人やまぼうし自然学校とが共催するイベント「パワースポット戸隠(く冬の森でリフレッシュハイクル)」が二月二十七日に開催されました。

当日は天候にも恵まれ、積雪が約一センチある戸隠森林植物園内の鏡池(随神



木の冬芽について説明を受ける参加者

門(奥社入口までの約四・三キロメートルのコースを慣れないスノーシューで雪上ツアーを行いました。

参加者は十名で、四歳から五十代後半まで幅広い年齢でしたが、スタッフから、ウサギやリス等の動物の足跡や木の冬芽についての説明を受けたり、トチの冬芽を味わってみる等の体験をしました。

コースの途中で、冬の戸隠の景色を撮影したり、木を抱きしめてみるなど、各自思い思いに自然を親しんでいました。

参加者からは、「初めての体験で楽しかった」といった感想も聞かれ、また元

気にはしゃぐ子供達の声がイベントを盛り上げ、楽しい一日となりました。

### 「シカ柵(さいねっと)勉強会」を開催

【愛知所】三月四日、愛知県設楽町の段戸国有林内において、低コストで効果が確認されている埼玉式ニホンシカ防護柵(さいねっと)の現地勉強会を開催しました。

この勉強会は、低コスト造林の取組の一環として、「さいねっと」の開発業者



シカ柵(さいねっと)設置体験

を講師に愛知森林管理事務所の職員と造林事業に携わる業者約二十名が参加しました。

「さいねっと」は、①従来の垂直型ネットから方向を変え、エプロンやスカートのように斜めに長く延ばして設置することにより、②下を潜り進入しようとしてもほふく前進する距離が長くなり、ネットが身体に接触し進入しづらい。③シカの足が抜けるサイズの編み目にし、斜めに張ることで、ネットに足が絡みやすく、支柱に近づくにしたがつて絡む位置がより高くなるため、進行方向に進むことが困難となる。④必要資材をシンプルに軽量化し、資材費・施工費・運搬費を削減。などの特徴を有しています。

勉強会は、講師から「さいねっと」の設置の留意点等の説明を受けた後、実際に伐採跡地へ約五〇メートルの設置を行いました。

参加者のほとんどが初めての体験とあって設置に戸惑う場面もありましたが、講師の指導を受け真剣に取り組み、時間がたつにつれスムーズに設置できるようになりました。

参加者からは「支柱がFRP製（繊維強化プラスチック）であることから従来の支柱に比べ軽く扱い易い。」「わりと容易に設置ができ、コスト削減が期待できる」といった声や、「支柱の控え索は必要なのか」「支柱等の耐久年数は」な

どの質問もあり有意義な勉強会となりました。

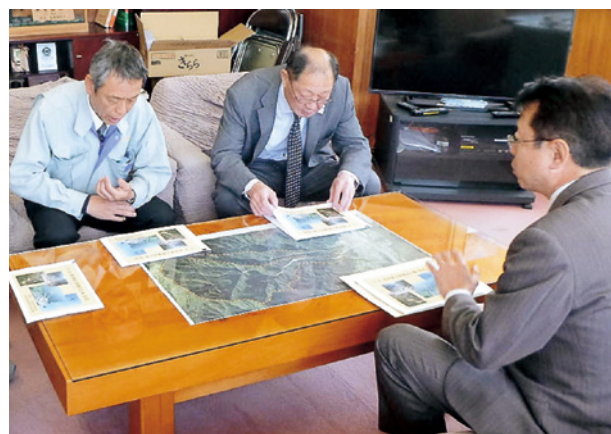
愛知県においてもニホンジカによる被害が増えている状況にあり、主伐後の確実な再造林を行うためには効果的なニホンジカ被害対策の実施が必要不可欠となっています。愛知森林管理事務所においては平成二十八年度からこの「さいねっと」の導入を図ることとしており、所内に設置した主伐・再造林対策プロジェクトチームにおいてその効果の検証とともに現地視察会の開催等を通じて関係者への普及にも努めていくこととします。

## 南木曽町長へ

### 災害復旧工事の完成を報告

【南木曽支署】平成二十六年七月に地域に甚大な被害をもたらした南木曽町豪雨災害については、当支署のほか南木曽町、長野県、国交省がそれぞれ災害復旧工事を進めています。当支署では計画した治山ダム七基の全てがこの三月末までに完成したこと、この度地元である南木曽町への報告を行いました。

町役場での報告には、町長のほかに担当職員も同席し、当支署から着工前と完成後の写真や図面などで現場の復旧状況や、天端幅が通常の二倍で本体上流側に土砂を捕捉するポケットを設けるなど新たに整備した治山ダムの機能を説明しま



工事の完成を報告する酒向南木曽支署長

した。

また、今回の工事は山間部の狭隘な溪流で四機関による同時期の施工であったため、各機関と事前の十分な調整を必要としたことや、中でも当支署の現場は流域最上部の急峻な場所であり現地まで作業道等がないため、軽量残存型枠工法の採用やヘリコプター・モノレールによる資機材の搬入、超高圧ポンプ車によるコンクリート打設（高低差一四〇メートル、延長七〇〇メートル）など施工に当たり工夫したことについても説明しました。

町長をはじめ関係者には、これまでも施工途中の現場を案内し、厳しい地形や地質など施工環境等を視察していただいていたおり、今回の報告により当支署による災害復旧工事への理解をさらに深めてい

ただくことができました。

町長からは、「住民の中には、再び土石流が発生したら大変なことになるとの不安の声があり、林野庁には早期に工事を完了させていただき大変感謝している」「森林管理署にはこれまでも地域にとつて重要な事業を実施していただいております、無くてはならない存在である」などの感謝の言葉と「これからも地域の安全・安心に向け治山工事等を積極的に実施してもらいたい」などの要望がありました。

当支署からは、円滑な工事に向けた協力への感謝を伝えるとともに、今後も引き続き適切な森林整備と治山工事の実施により災害に強い森林づくりに取り組んでいくことの説明、さらには、事業実施に向けての地域の協力等をお願いしました。



## 新規採用者の紹介

どうぞよろしく  
お願いします。



- ①出身地
- ②趣味・特技
- ③社会人になったの  
抱負

平成二十八年四月、八名の職員が採用となり、管内各署等に配属となりました。  
新規採用者の皆さんの抱負等を紹介いたします。



やぎした まき  
**柳下 真紀**  
(技術普及課)

- ①長野県 長野市
- ②写真、自転車
- ③正確な知識を身に付け、一日も早く中部森林管理局に貢献できるよう頑張ります。



むらなか たけひこ  
**村中 健彦**  
(富山署)

- ①福井県 大野市
- ②空手道 (和道流)
- ③私は紳士であることに對して、常日頃から努めます。どうか宜しく願います。



たまき ようすけ  
**玉木 陽祐**  
(北信署)

- ①福島県 石川郡石川町
- ②登山、野球
- ③一日でも早く、森林、林業、木材産業を支える屋台骨になれるよう精一杯努力して参ります。



いけばた くみこ  
**池端 久美子**  
(木曾署)

- ①京都府 京都市
- ②スポーツ、トレーニング
- ③新しい環境で慣れないことも多くありますが、何事にも責任感を持って頑張りたいと思います。



くぼしま よしひこ  
**久保島 慶彦**  
(飛騨署)

- ①長野県 北佐久郡軽井沢町
- ②登山、散歩
- ③慣れない土地でも、積極的に地域の自然や人々と多く関わり、楽しく精一杯頑張ります。



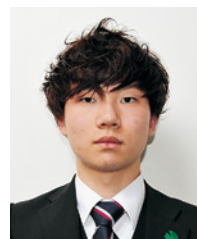
おはら ひろあき  
**小原 弘明**  
(岐阜署)

- ①岡山県 岡山市
- ②野球観戦
- ③山をたくさん歩きたい。署の和を乱さないよう、精一杯仕事をしていきます。



やまの ひかる  
**山井 ひかる**  
(南信署)

- ①長野県 上田市
- ②海外のドラマを見たり、音楽を聴くことです。
- ③自分のすることに責任を持ち、しっかりとした挨拶を心がけていきたいです。



めざき たくみ  
**目崎 拓海**  
(東濃署)

- ①北海道 岩見沢市
- ②家のDIY、バドミントン
- ③先輩方の技の一つでも多く盗み、少しでも早く皆様の力になれますよう努力していく所存です。

## 行事・会議等の予定

◎愛知県植樹祭

5月14日 北名古屋

◎とやま森の祭典

5月22日 魚津市

◎森林管理署次長等会議

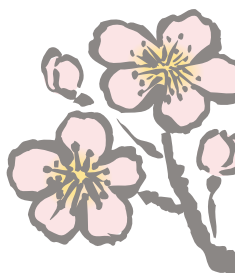
5月25日～26日 中部局

◎林業後継者大会

6月4日 飯山市

◎全国植樹祭 (式典)

6月5日 長野市





# 「富山署 上市森林事務所」

森林官 山田 昭仁

上市森林事務所は、富山県東部の中新川郡上市町に所在しており、二市一町を管轄し、国有林面積二二、三〇〇ヘクタール、官行造林一一〇ヘクタールを管理しています。

管内国有林は、中部山岳国立公園が七、八八〇ヘクタール、県立公園が一、九九五ヘクタール、併せて九、八七五ヘクタールと、全体の約八〇パーセントを占めており、全体に急峻であり、天然林が主体で人工林は二割の二三五ヘクタールとなっています。



阿部木谷の治山えん堤群



初冬の剣岳

部内での事業は、わずかの人工林も高齢級となっており、現在は保育作業があまり行われていません。

また、五五割が土砂流出防備保安林に指定されていることから、治山事業が昭和三十年代から行われ、現在も四つの支流域で実行されています。

部内の上市町には、「雪と岩の殿堂」と呼ばれる標高二、九九九メートルの「剣岳」があります。近年、新田次郎の小説「剣岳点の記」が、大村大作氏により同名で映画化されています。

また、同町では、エコツーリズム事業



水の学び舎ツアーの様子



片貝川南又谷洞杉

の一環として、森林セラピー基地「剣・きらめきの森」が昨年オープンしました。この基地には、「懐かしい里山の風景と歴史文化が楽しめるエリア」、「剣岳の玄関口、大自然の息吹が感じられるエリア」、「自然と歴史が香る雰囲気味わ

えるエリア」の三つの個性豊かなエリアからなっており、訪れた方のためにセラピー弁当が二種類用意されています。

魚津市には、片貝川の支流である南又谷の標高五〇〇〜七〇〇メートル付近には、「洞杉」と呼ばれる巨木があります。

このスギは空洞を持った杉ということで付けられた俗称のようです。急傾斜地の岩場や転石に根をからめて、主幹を持たずに幹を分散して複雑な樹形を作り上げていくといった、珍しい生育形態を持ったスギです。同じ流域には、龍石神社があり、龍石（蛇石）と呼ばれる奇石があります。干ばつの時には、この石を叩くと必ず雷雨が伴うと、信じられています。

昨年は、「水の学び舎ツアー」が魚津市主催で開催され、魚津市の水源でもある、片貝国有林内にある治山施設の見学を中心に行われました。うまくない説明ではありましたが、参加者の方には、日頃入ることのできない国有林に入ることができ、また、復旧治山事業で造られた堰堤群を見て、森林管理署の事業に感心されていました。今後も違う現場を見学してみたいという意見が、多く寄せられました。

これからも、このような機会を通じて、国有林野事業を理解していただけるよう努力していかなければと思っています。



新城市は、愛知県東部に位置し、新城市、鳳来町、作手村の新設合併によって平成十七年十月に誕生しました。同市の主な観光資源は、桜淵公園や霊鳥仏法僧（コノハズク）の棲む鳳来寺山などが名勝地とされています。

◆**新東名**  
平成二十八年二月十三日、浜松いなさ JCT から豊田東 JCT 迄が開通し、新城市では地域活性化に向けた新たな取り組みが始まりました。



◆**長篠設楽原 P A**  
長篠と言えば、天正三年（一五七五年）武田勝頼軍一万五千人と織田・徳川連合軍三万八千人の決戦場と知られ、武田軍が一万二千人、連合軍が五千人を失い、武田軍が撤退した歴史があり、これを活かした P R が本格化しています。



長篠設楽原 P A は、戦国時代に関連したグッズ類の展示販売がメインとなっています。その特徴は、合戦当時の歴史を知る模造品（火縄銃、刀類）の展示販売や馬防柵等の設置があり、売店では歩兵隊の衣装を着た店員がファーストフード類の販売も行っています。



馬防柵

新城市では、新東名の開通に伴う I C ・ P A の設置による一般観光客の集客とその経済効果を期待した事業が新たに加わり、戦国時代の造詣に係なく、是非一度ご覧になることをお勧めいたします。

## ◆アクセス

【新東名】 新城 I C から下り車線を走行し約一分。

【一般道】 新城市役所から市道を走行し約四キロメートルで外部専用駐車場に乗り入れ可能。

【鉄道】 J R 新城駅前からタクシーを利用し、約八分程で到着。